



PROFILE

ますだ・ひろこ (73・朝比奈原)

「日本画院」に所属し、四季の美しさを伝える日本画を数多く手掛ける

自然の美しさを日本画で描く ますだひろこ 増田裕子さん

色彩の表現力が好評価

「ふじのくに芸術祭2014」が開催され、美術部門で増田裕子さんの日本画「郡芳」が応募総数352点の中から入選、さらに静岡県芸術祭賞に選ばれた。審査員から「紅葉した繁みの前に、白く色を失った生命力の衰えを如実に感じさせてこの絵を忘れ難いものにする」との評価を受けた増田さんは「思いがけない賞を頂けてうれしい」と喜びを語る。

日本画に魅せられて

増田さんが日本画に出会ったのは20数年前。退職祝いとして贈られた1枚の絵がきっかけだ。その素晴らしさに心を打たれ、自分もこんな絵を描きたいと筆を握るようになった。思いを表現する舞台は畳一畳よりも大きな1000号キャンバス。日本画で表現する題材は普段の生活で見える風景だ。

作品作りは、野山に出掛けて絵のモチーフとなる草花を取ってきたり、実際に花を植えたりして、



受賞作品「郡芳」(日本画)

納得がいくまでひたすらスケッチすることから始まる。

頭や胸の中にある描きたいと思うイメージは夢に見るほどで、スケッチがそろったら一気に下図へ書き起こす。「思いと手が一致せず、描きたいと思っているものをなかなか描けない時が一番大変。そんな時は気持ちをリセットするために2、3日絵から離れて気分転換します」と作品を描き上げるまでの苦勞を語る。

絵画への情熱を燃やす

「絵を描くことに年齢は関係ない。むしろ年を重ねるほど絵に掛ける情熱は強くなっているんです」と話す増田さん。「大きな絵を描くには体力が必要ですが、筆1本あれば絵は描ける。見た人の心が和むような絵を描き続けたい」と意欲を燃やす。

これからも心に残る素晴らしい絵を描き続けてほしい。